

合会議は成立した、而し其の始末過程は於て、一、二の條件は、協力をベクツとして会議内に於て、「吾々は閉鎖するものがある」と言ふことなし、多岐の一般の行為に反對的態度をとへ示して居る、世間的に健全なる労働組合主義は、日本に固情に即せんとする運動に対して、悪意に満ちた、健康即ち「吾國家的、共産主義的主張」を持して居た、茲に、斯様な、日本主義的立場を宣揚する団体との間に意見の対立を求めたし、遂に日本造船労働聯盟四千名脱退を見たりは遺憾である。

参加団体は

日本労働組合総聯合

日本労働総同盟

全国労働組合同盟

日本労働総聯盟

日本港務労働聯盟

官業労働総同盟

日本製鉄労働聯合会

東電従業員組合

日本海軍協会

日本海員組合

合計二十七万人

### 国際労働會議

昭和六年年度国際労働會議に於いて、日本労働クラブはその代表選出のため、昭和六年十二月十五日の第三回懇談会に於いて協議の上、労働者代表候補西尾未次氏、労働顧問候補を、総聯盟及び日本労働組合総聯合と決定し第三候補は海軍聯盟を推選した。

即ち総聯合よりは東京聯合会、皆川利吉君を候補者と推選し、その旨を日本労働クラブに回答し、十二月二十六日クラブ西尾君の決定に就いて協議し、第十六回国際労働會議労働者代表は決定した。

総会は、四月十二日から四月三十日まで、ゼネバのバザマン・エレブトラに於いて開会せられ、参加四十九ヶ国、各国代表者百四十八名、顧問百九十一名によりて會議を成立した。

本年度の正式議程は次の如くである。

- (一) 有料職業紹介所の廃止
- (二) 養老、療疾、遺族保険に關する議案